

マンツーマンディフェンス推進 審判の対応

<マンツーマンディフェンス推進の趣旨>

日本全国において一貫した基準でのマンツーマンディフェンスの推進を行うことが目的であり、違反行為を取り締まることが目的ではない。意図的な違反が目立つ場合は、試合中のピリオド間やハーフタイム、試合後に指導が行われる。

また、成長段階にある子供達が対象となることから、「体力や技術不足により起こる違反行為」については、配慮が必要である。

- ゲーム中、マンツーマンディフェンスをしているかどうかの判断は、すべてコミッショナーが行う。
- コミッショナーは、どちらかのチームがゾーンディフェンスを行っている判断した場合、黄色の旗を振りそのチームのベンチを指す。その後、引き続きゾーンディフェンスが行われ、改善が見られない場合は赤い旗が上がる。

○ 1回目の赤い旗が揚げられた場合

赤い旗が上がってから、最初にゲームクロックが止まったとき、コミッショナーは該当チームのコーチに速やかに説明を行う。（コーチが選手に指導を行うこともある）審判は、そのチームのコーチに対して**警告**を与える。この間、もう一人の審判はコート内の選手を把握する。

○ 2回目の赤い旗が揚げられた場合（同じチームに対して）

引き続き同じチームが、ゾーンディフェンスを行うような事があり、赤い旗が揚げられた場合、審判は最初にゲームクロックが止まったときに、該当チームに対して**コーチのテクニカルファウル**を宣する。

※ピリオドの終了間際やゲームの終了間際に起こった「イリーガルなディフェンス」に関して

ピリオドの終わりに黄色の旗が揚がっても通常の警告であるが、**試合終了間際(残り2分を切ってから)**の警告は、赤い旗の対象となる。

試合の勝利を意識しての意図的なイリーガルディフェンスは、1回目でテクニカルファウル（赤旗）となる。よって、試合終了の合図の後、フリースローが行われる場合がある。

*大会によっては、黄色い旗が上がらずすぐに赤い旗が揚げられる場合もある。また、1回目の赤い旗でコーチのテクニカルファウルとなる場合もある。これは、大会規定による。

*コミッショナーのいない大会で、審判の判断だけで処置をくたすことはない。